



令和4年1月11日
佛教大学附属幼稚園

「仏教保育1月のねらい」

わげんあいご
和顔愛語

「穏やかな心で優しい言葉」

園長 佐藤 和順

寅年を迎えました。新年明けましておめでとうございます。旧年中は、幼稚園の運営に関しまして多大なるご理解、ご協力をいただきありがとうございました。コロナ禍の収束には、今しばらく時間がかかりそうですが、今年も子どもが元気いっぱい、笑顔がいっぱいの幼稚園生活を送ることができるように教職員一同力を合わせ、がんばって参りたいと思います。どうぞ、一年間よろしく願いいたします。

今月の保育の目標は「和顔愛語(わげんあいご)寒さに負けず仲良く遊ぼう」です。「和顔」とは、心と顔の両方が常に優しい気持ちでいること。「愛語」とは、周りの人を思い、優しさを持って話すということです。つらい時、悲しい時、くじけてずっと情けない顔をしてはいけません。どんなときでも笑顔を忘れず、仲良くしていきましょうということを園児には伝えていきたいと思います。

この「和顔愛語」は、私の座右の銘でもあります。出会ったのは、小学生の頃であったと記憶していますが、子どもながらにとても「良い言葉だなあ」と感じました。教員になってからは、まさに幼児教育になくはないものだと考えています。ですから、何かメッセージを請われた時には「和顔愛語」と書きますし、大学の授業で教育実習を終えた学生には、最後にこの言葉を贈っています。たとえ幼児教育の道に進まなかったとしても「和顔愛語」の精神を持って社会に出てほしいと願っているからです。

言葉の力はとても大きく、使い方次第で気持ちが楽になることもあれば、誰かを傷つけてしまうこともあります。優しい言葉を聞けば気持ちや心が穏やかになり、逆に非難や悪口を聞けば嫌な気持ちになります。心や体が病んでしまうこともあるでしょう。言葉はこのように人間に影響を与えるものです。また、言葉はすべて自分に返ってくるとも言われています。人に優しい言葉をかけることができる人は、人からも優しい言葉をかけられるでしょうし、常に人の批判や悪口を言っている人には、口から出ている醜い刃はやがて自分自身に返ってくるでしょう。

いつも「穏やかな心で優しい言葉」というのは日常生活を送るうえで難しい場面もあるでしょうが、言葉の大切さを意識して一言一言を発していきたいと思います。

子どもが成長していく過程には様々な喜びや困難があります。まわりの大人たちが「和顔愛語」の精神で子どもと向き合うことで、子どもは安心して心豊かに、思いやりのある子に育つのです。まずは家庭から、私たち身近な大人が実践していくことが大切です。

